

業容拡大と技術革新による生産性向上を見据え 「RDC埼玉」を開設 ～さらなる自動化・効率化に向けた挑戦～



株式会社PALTAC（本社・大阪市 代表取締役社長 糟谷 誠一）は、本日「RDC埼玉」を埼玉県北葛飾郡杉戸町に開設し、2019年11月より稼働いたします。

このたび開設する「RDC埼玉」は、国内最大市場である首都圏における業容拡大に対応する出荷能力拡大、及び労働人口減少に伴う人手不足に対応し得る大幅な生産性向上の実現を目的としております。

特に人手不足への対応に向けては、昨年8月に稼働した「RDC新潟」にて導入済みである「SPALD」を約5倍の規模で展開するとともに、さらなる進化に挑戦した当社最大規模の物流センターとなります。

「SPALD」導入第1弾のセンターである「RDC新潟」では、ピースピッキング作業において従来と同じ作業人員数で2倍の処理を実現するとともに、自動化・ロボット化の推進により危険作業や人への負担が多い作業の軽減などを実現しております。

「RDC埼玉」においては、「RDC新潟」で蓄積したノウハウを元に進化（深化）させ、さらなる自動化・効率化に向けた機器・仕組みを導入し、人手不足の環境下においても安定した出荷を可能とする「生産性」の追求と、より「人に優しい」物流センターの実現を目指してまいります。

PALTACは、最新テクノロジーの活用をはじめ、これまでの卸の枠にとらわれない流通改革に挑戦し続け、「顧客満足の最大化と流通コストの最小化」を目指し、インフラ企業としての役割を果たしてまいります。

- （注） 1. RDC（Regional Distribution Center）：大型物流センター
2. SPALD（Super Productivity Advanced Innovative Distribution）：AIやロボット等の最新テクノロジーと当社が持つ物流ノウハウを融合させた、独自開発の次世代型物流システム

<開設の目的>

(1) 首都圏における流通効率化の推進

- 首都圏における業容拡大に対応できる当社最大規模センターで「SPAID」を展開
年間出荷能力 1,200億円

「RDC新潟」より始動した「SPAID」を約5倍の規模のセンターで展開

→「RDC新潟」と比べ、出荷効率向上・出荷単位あたり初期投資コスト半減

- 圏央道近くの立地を活用した、首都圏全域へのスムーズな商品供給

(2) 大幅な生産性向上の追求・人に優しい物流センターの実現

- 深刻化する労働人口減少への対応

人手不足の環境下でも安定した出荷を実現

→ピース出荷の人員生産性、従来比2.5倍

- 負担が多い作業や危険な作業を自動化・ロボット化

→自動入庫検品システム・A1ケースピッキングロボット・A1ケースローディングロボットにより、ケースの入荷から出荷まで、重い物を取り扱う工程の大部分を自動化

- サプライチェーン全体を視野に入れた生産性向上

配送ドライバーの労働環境改善などホワイト物流の推進につながる仕組みの構築

→自動入庫検品システム・入荷予約システム導入により、ドライバーの荷降し時間・待機時間を削減

- 作業工程のさらなる自動化・効率化に向けた、主な機器・仕組み

→A1ピースピッキングロボット（RightHand Robotics社との協働 ※1）

・「MUPPS」方式（歩かない・探さないピッキング）における商品保管用トレイからのピッキング作業を自動化

・A1学習機能により商品の事前登録作業や商品ごとの把持操作プログラミングが不要

→A1ケースローディングロボット（MUJIN社との協働 ※2）

・ケース出荷における積み付け（重い物を持ち運ぶ）作業を自動化

・同一ロボットで3種別以上の出荷マテハンに積み付け可能（世界初 ※3）

→A1ケースピッキングロボット（Kyoto Robotics社との協働 ※4）

・パレット自動倉庫からのケース出庫（重い物を持ち運ぶ）作業を自動化

・目（ビジョンセンサー）と脳（A1）の進化により商品の事前登録が不要

・世界最速700ケース/hの高速ピッキング ※5

→自動入庫検品システム

- ・センサーによる入庫検品作業の自動化（危険を伴うフォークリフト作業不要）
- ・ドライバーの荷降し時間を削減

→入荷予約システム

- ・予約からバース誘導まで、高効率でスムーズな運用
- ・ドライバーの待機時間を削減

(注)「MUPPS (Multitaskcrane Piece Picking System)」方式：

商品が人の手元に来てくるピースピッキング方式

人が商品を取りに行く従来方式において作業時間の半分を占めていた歩行をなくすことでより多くのピッキングが可能となる

- ※1 詳細は2019年3月19日リリース「株式会社PALTAC・RightHand Robotics, Inc. 協業により物流センターの自動化を推進」をご参照ください。
- ※2 詳細は2019年6月13日リリース「株式会社PALTAC・株式会社MUJIN 協業によるケース積み付けの自動化を推進」をご参照ください。
- ※3 2019年7月当社調べ
- ※4 詳細は2019年5月15日リリース「株式会社PALTAC・kyoto Robotics 株式会社 協業によるマスターレスの物流自動化を推進」をご参照ください。
- ※5 2019年7月当社調べ

(3) BCPの観点

■平時はもとより有事の際にも「安定供給」できる体制

→全て免震構造を採用

→非常用発電機を設置

→サーバー2重化による停止しないシステム体制

→RDC関東・RDC横浜・RDC新潟との相互補完体制

<施設概要>

別紙記載のとおり

※設備の詳細については別添のパンフレットをご参照ください。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。
物流本部・佐塚 (TEL 06-4793-1075)
経営企画室・嶋田 (TEL 06-4793-1090)

《別 紙》

新設RDCの概要



＜RDC埼玉 外観＞

所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町大字屏風 200 番地 1	
敷地面積	66,620.33 m ² (約 20,153 坪)	
建築面積	建坪	20,588.08 m ² (約 6,228 坪)
	延坪	45,374.39 m ² (約 13,726 坪)
	内 自動倉庫	4,600.23 m ² (約 1,392 坪)
年間出荷能力	1,200 億円	
総投資額	230 億円	